

● 本会の動き ●

☆第20回上席化学工学技士交流会(大阪)を開催しました☆

去る2月7日(金)、大阪地区の上席化学工学技士交流会が開催されました。第20回の今回は、大阪科学技術センターで、いつもご指導いただいている大阪大学名誉教授平田雄志先生をはじめ、関西、関東、東海、中国などから15名が参加されました。

今回のテーマは、昨年7月、前回の交流会でも議論が白熱した人材育成です。

交流会はいつものように、話題提供／SPCE's フォーラム／交流懇親会の順に進められました。

話題提供では、三菱ケミカル(株)の岡崎正寿氏から、同社岡山事業所で進められている生産技術力強化プロジェクト、通称「桃太郎プロジェクト」が紹介されました。

このプロジェクトは、生産技術系社員の現場力向上を図り、直接部門を強化することによって事業所全体を一層レベルアップするという理念のもと始まり、対象は入社4～8年程度の中堅の生産技術系技術者。2年かけた組織的・体系的教育によって将来の技術経営を担う人材を育てます。

桃太郎…とは面白いネーミングですが、岡山の桃太郎伝説にちなんで、お爺さん、お婆さん(製造課の上司ら)に育てられた桃太郎(プロジェクトメンバー)が、旗(テーマ)を掲げ、腰に刀(技術)を差し、秘伝の巻物(OODA等の論理性)を携え、途中で出会った犬(仁)、サル(智)、キジ(勇)に褒美としてきびだんご(徳)を与えて家来にし、鬼ヶ島で鬼(課題)を退治(解決)し、勝ち取った金銀財宝(成果)を手に郷里の実家(所属する製造課)に凱旋する、というストーリーがイメージになっています。

プロジェクトはキャリアプランに則り、論理的思考のためのスキルを身につけ、OJTにおける問題解決をサポートするというもので、研修と配属先でのOJTを有機的に接続するものです。1年目は、種々の研修等で自らのキャリアパスを意識し、論理的思考の手法、表現の作法を習得し、事業環境の理解、考察をしてテーマの優先順位を決めてから課題解決に着手するとのことでした。2年目はそれらのスキルを用いてより効率的に職場の課題を解決していきます。そのためのフォローの場として週報会で叱咤激励し、成果報告会で成長を確認していきます。

2年間のプロジェクト修了時には、格段にレベルアップした姿になっているそうです。

この話題提供に続くSPCE's フォーラムでは、2019年から始まった化学工学技士限定講座「しごとの常識塾」について、講師の伊藤眞一郎氏(元住友ベークライト(株)取締役専務執行役員)から紹介がありました。

社会人になった頃は組織の要求に余力を持って応えていた人も、中堅層となる40代には組織が求める能力が自分の能力を上回る分岐点を迎えます(図)。

そうなる前にプロとしての人格と識見を身につけるという狙い

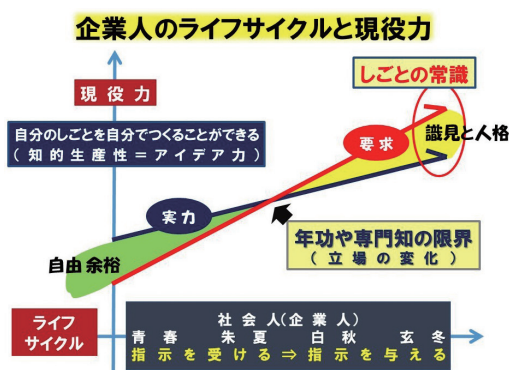


図 伊藤眞一郎 化学工学技士限定講座「しごとの常識塾」資料(2019)

のもと、この塾は始められました。

知的労働者は情報に付加価値を創造することで組織に貢献しています。「現役力」とは聞きなれない言葉ですが、思考により情報を再構築して付加価値を作り出し、評価できる力のことを「現役力」と言っています。

知識をどう使うか? 知識(knowledge, information)を見識(intelligence)、胆識(wisdom)に発展させていくには? 行動の起こし方は? といった課題に対し、「しごとの常識塾」の塾生たちは、少人数による双方向の交流の中で解を見出していきます。

伊藤氏は、塾の資料によく上高地の河童橋付近の写真を使われます。その意図をお伺いしたところ、河童橋の畔の五千尺ホテル、ここから一万尺と言われるアルプスが一望できることから、まだ人生の中間地点ということを象徴しているというご説明に、なるほどと得心しました。

この日の岡崎氏、伊藤氏の話には共通して、プロとしての作法、心技体といった言葉が出てきました。

先日、亡くなったプロ野球、野村克也氏。監督時代のミーティングは、人間どうあるべきかという話から始まったと言います。真のプロになるには、ある段階で人格、識見といったものを備える必要があり、そこに気付かせるのが人材育成の要なのか、と感じました。

SPCE's フォーラムでは、これら2件の話題に絡め、各社の人材育成の取り組みや実のある教育にする難しさなどの問題点、大学教育の変化など、人材育成、技術伝承で議論が白熱し、懇親会となりました。

懇親会会場はかつては名曲喫茶として親しまれたラウンジ。古き良き大阪の雰囲気が漂っています。最近、店主はレトロな大阪を紹介するテレビ番組に出演されました。

私たちは普段、情報を理解して要点を把握する、といった作業に多くの時間を消費しています。しかし、そうした営みでは積み残される、決まった正解のない問題について意見交換し、頭を整理する場、また社会にインパクトを与えるような行動を起こせるポテンシャルも秘めた場には意義深いものがあります。

この会は、上席化学工学技士の方ならどなたでもご参加いただけます。次回は、7月10日(金)午後の開催を予定しております。フランクで活発な交流が関西の文化です。お気軽にご参加ください。お待ちしております。

(住友精化(株) 南 秀典)